

新型コロナウイルス感染症検査機器の使用経験と今後の利用について

◎細越 小夏¹⁾、稲員 成美¹⁾、田中 美穂¹⁾、品川 由美子¹⁾、小宮 佐恵子¹⁾、八木 雄大¹⁾、加藤 純子¹⁾、生田 幹博¹⁾
福岡大学筑紫病院¹⁾

[はじめに]当院では2020年5月より新型コロナウイルスのPCR検査を導入し、2021年8月より免疫測定装置による抗原定量検査を導入した。この2年間の新型コロナウイルス検査に対する当院の取り組みについて、またこれからの利用予定について報告する。[機器]PCR測定装置：FilmArray, GeneXpert, QuantStudio5, geneLEADⅧ, SmartGene 抗原定量装置：HISCL[検体採取]当院では6機種で使用する検体は、全てVTM培地にて採取した鼻咽頭ぬぐい液を使用している。提出検体の一本化によって、過って採取することなく、検体採取者の感染リスクを最小限にし、患者負担軽減や検体保管が可能となり、そのメリットは大きい。また、コロナ感染患者専用病棟に勤務する職員の感染対策の為、自身で採取可能な唾液検査の実施も定期的に行ってきた。[測定と報告]測定はPCR検査と抗原定量検査共に24時間対応している。平日日勤帯は1日に3回QuantStudio5やgeneLEADⅧを使用し、その間、至急検査の依頼はGeneXpert(測定時間50分)、SmartGene(測定時間60分)で対応している。

FilmArrayは主に小児科の呼吸器感染症を対象に測定している。現在HISCLで測定している抗原定量検査は主に有症状者を対象に測定している。陽性時は主治医、感染制御部の医師、看護師へ電話連絡している。[まとめ]当院では新型コロナウイルスの検査において2020年5月よりこれまで、呼吸器内科の医師や感染制御部と連携し、検査体制を積極的に整えてきた。2020年8月からは6機種それぞれの特徴を生かし、時間外もPCR検査に対応し、日勤帯では多数のPCR検査依頼に対応できるようにしていた。そのため、院内クラスター発生時も関係スタッフの感染状態を迅速に把握でき最小限に抑えることができた。現在新型コロナウイルス感染症終息後の運用を模索しているが、検査部以外との連携を図り病院全体での機器の活用を考え、手始めに病理部との共同利用としてAmoyDx肺癌マルチ遺伝子PCRパネルの測定をQuantStudio5で開始した。他部署と連携し、機器の高度な性能を生かして、今後はさらに検査の幅を広げていける可能性があると考えている。連絡先(092)921-1011